

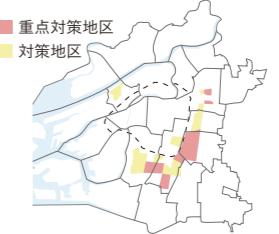
家朽ちて、山と帰す —都市の『山』—

古来より存在する木造文化により、大量に建設されてきた木造建築は見方を変えると、木材資源を保管する都市の『山』として捉えることができるのではないだろうか。

木造建築の「資源性」に着目し、段階的な解体の中で発生した部材や空間と住民たちの新たな関係性を作り出す資源の貯め方を提案し、都市の『山』としての有用性を示すことで行為や場を作り出し都市更新を行う。



00. 背景：腐敗するモクミツ



- ・全国 3,149ha の内、大阪は 1,885ha
 - ・住環境や防災の問題を抱える
 - ・居住者の高齢化等による空き家増加
 - 建築物の老朽化

戦前に建設された建築物が木造住宅密集地域（＝以下、モクミツと記す）として残っている。主にスクラップ＆ビルドという形での整備を進めており、「資材」を減らし「廃材」を生んでいるに過ぎない。また、その量の多さから手を付けられていない地域は取り残され、「腐敗」していっているのではないだろうか。つまり、まだ価値や可能性を残した、多くの木々を持つ『山』が、取り壊されるか、「腐敗」するのを待っていると考えられる。

01. 問題提起：都市の『山』



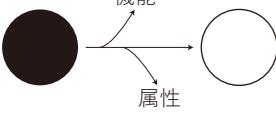
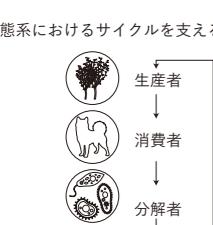
建築の解体時は大半が産業廃棄物として、単一的に処理され無差別に碎かれている。まだ価値や可能性を残した資源としての都市の『山』が取り壊され「腐敗」していると考えることもできる。「廃材」と「資材」の境界を問い合わせることで、都市を資源の『山』として活用できる可能性を探る。木造建築の資源性に着目することで、「腐敗」していくモクミツの価値を生み出す、資源の活用を再考し提案する。

02. 敷地：大阪市生野区



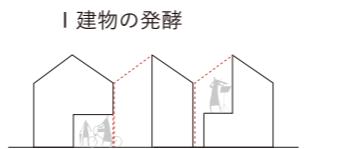
大阪市生野区は環状線の東側に隣接し、現状、モクミツが最も多く残る地域のひとつである。個人商店や町工場が多く、町工場と地域のコミュニティ同士が生活の中で重なることで住民同士の関係性が作られてきた。商店街や学校、戦前から残る通りがあり、平日でも地域住民が散歩や買い物で訪れている。多くみられる路地では、イスを置いて談笑したり、植木鉢や自転車を置いたりするなど、生活空間と路地を一体化させたように使い住民たちの生活があふれ出している。

03. 提案：解体から生産へ「発酵」のプロセスによる都市更新



建築の分解：都市の『山』への読み替え

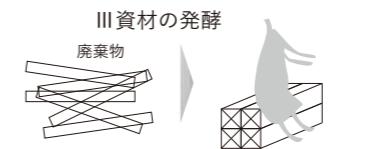
The diagram illustrates the cycle of decomposition in urban renewal. It features three circular icons: a tree labeled 'producer', a person labeled 'consumer', and a microorganism labeled 'decomposer'. Arrows indicate a flow from producer to consumer, and from consumer to decomposer. To the right, a detailed architectural drawing shows a building complex with a legend: a yellow-green shaded area is labeled 'Roadside decomposition land' (路地的分解地), and a grey shaded area is labeled 'Large land decomposition land' (大地的分解地). The text to the left of the diagram discusses the ambiguity of the terms 'decay' and 'fermentation', and how the concept of decomposition is applied to urban renewal through the decomposition of existing buildings.



集して建つ建物を徐々に解体し、引
算により生まれた空間に新たな役割
を与える。資源を貯め、使うための場
となる

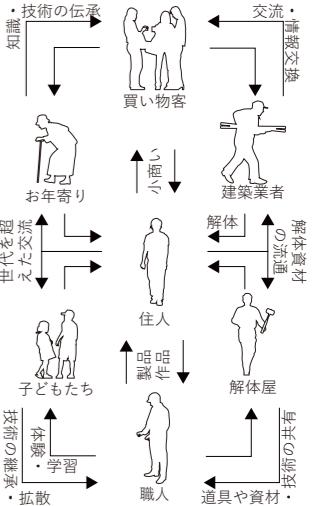


築物が解体されていくことで採光
風など自然環境が入り込み緑が生
り、庭あるいは小さな農地として
な役割を得る。



解体の際に出るまだ使用できる「資材」の貯めることで、再生され新たなモノ、あるいは住宅の中の小さなストックとして「発酵」する。

「分解者」：アクターズネットワーク





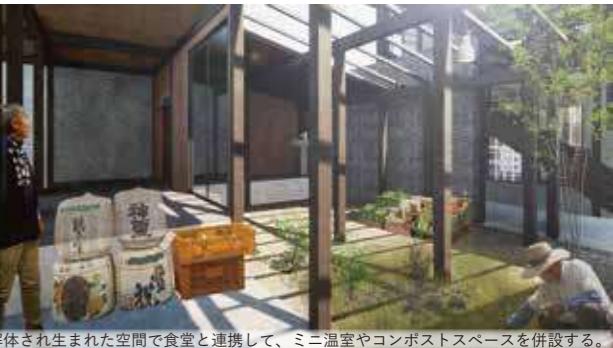
路地的分解地では生活空間と路地が一体化することで、路地を介して築かれてきた住民同士の関係性が敷地内部に引き込まれる。



道路側に広がりを持っていた生活の一部が、町の縁側に展開され地域住民を受け入れる。



住民たちの手で作られた防火壁は、経年変化により新たなファサードとして現れる。



解体され生まれた空間で食堂と連携して、ミニ温室やコンポストスペースを併設する。

